

ぶらネットこまき

<http://www.komakichiku.com/> (古牧地区住民自治協議会広報紙)



第111号

古牧だより通算205号

古牧地区 ふるさと文化芸能祭 芸術の秋 すてきな1日

小春日和の11月3日(土)文化の日に古牧地区第35回ふるさと文化芸能祭が開かれました。

展示部門

古牧公民館の2階集会室で展示部門の作品が飾られ261人の来場がありました。和室では「いけばな親子教室」が行われました。



- ▶ 和紙をちぎる・はがす感覚が好き、仕上がりが楽しみでちぎり絵を続けている。
(西和田区 70代 女性)

- ▶ 芸術作品の鑑賞の仕方など出品者から、直接ためになる話が聞けて良かった。
(南高田区 70代 男性)

芸能部門

古牧小学校西体育館で芸能部門の発表があり、第1部は学校・各種団体10組、第2部は地域公民館から6組総勢360人が出演し、326人の来場がありました。



- ▶ 出番前まで東体育館で大正琴を練習して、無事に終わりほっとした。
(上高田区 70代 女性)
- ▶ 児童たちの演奏に合わせて、みんなでYMCAを踊り、なつかしく楽しかった。
(南長池区 60代 男性)

閉会式の最後に大抽選会があり、今年の特等賞は家庭用高圧洗浄機、当選した平林区の斉藤春代さんは「毎年来てますが初めていただきました！」と笑顔で話されました。
(公民館部)



ちから

できることで力になりたい 担い手不足問題などを女性役員が話し合う

長野市男女共同参画センターが企画する、市内の住民自治協議会で意思決定の場に参画する女性を育成する女性のための講座（「女性リーダーフォローアップ講座」・年間5回開催）があるのをご存知でしょうか。古牧地区の代表として講座を受講しました。

同センターの後押しで、11月9日（金）古牧公民館で地域における女性の参画を考える「語らいの場」を開きました。

参加者は、古牧地区住民自治協議会の教養文化部会の公民館部女性役員6名。地域公民館の人材確保が課題となっている中で、どうしたら女性役員を増やせるかをテーマに話し合いました。

各地区で、現在の役員になるまでの経歴や思いを一人ひとり模造紙に書き込みながら話すことで、テーマの糸口が見えていきます。



今回集まった女性役員は、男性役員が現役で仕事をしながら責任ある役や力仕事を担っている姿を見て、女性ができることで力になりたいと考えています。女性役員が楽しみながら活動し、次世代につながる道筋を男性役員と共に築いていきたいと締めくくりました。

（近藤 葉子）

中村区で文化祭 見てよし 聞いてよし 味もよし

11月11日（日）中村公民館で、第44回中村町文化祭が開かれました。書やパッチワーク、夏休み自由研究などの展示発表やバンド演奏、大正琴などの芸能発表がありました。



模擬売店では、おでん、焼き鳥、グリーンカレー、綿あめ、クレープ作りに500名メンバー、バレー部、公民館役員が汗を流してくれました。

また、中村区民の健康を考えて、血圧、血管年齢、足指力の測定に保健補導員が一役かってくれました。

クレープ作りに初めて挑戦、前日のリハーサルでは失敗の連続。大丈夫かと思いきや、当日は根性で60個作り、ほっと胸を撫で下ろしました。

お味は、クリーム、ブルーベリーが美味しいとなかなかの評判でした。

大正琴による発表では、リンゴの歌、およげ！たいやきくん、旅愁など演奏し練習の成果が出ました。

小学校4年生の皆さんによるハツラツとしたダンスもあり、楽しい文化祭となりました。



（中村区 伊藤秀樹）

防火・ゴミ処理 in 上越・富山

住民自治協議会の視察研修

10月24日(水)・25日(木)、住民自治協議会の視察研修が行われました。目的は上越・富山地域の防災、廃棄物処理関連施設の視察研修です。会長、副会長以下、防災連絡会、総務部会、環境美化部会の総勢31名の参加でした。

最初の訪問先は上越クリーンセンター。昨年竣工した同所は田園地帯の中に建設されています。真新しい建物に見学コースがあるほか、2基の焼却炉と排煙装置、焼却熱を利用した発電や場内外への余熱供給など上越市自慢の処理施設です。訪問した時は定期点検のため焼却炉は停止中で、ピット内に積み上げられた可燃ごみをクレーンで攪拌する作業を見学しました。長野市では粉碎して堆肥化している剪定枝などを同市では焼却するなど、自治体によって分別・処理方法の違いを改めて認識するとともに、近々、長野市で完成する新処理場も見学したいと感じました。

次の訪問は富山防災センターです。同センターは地震、風水害、雪害等の災害に対応する基地であり、復旧活動のための資機材の備蓄、災害発生時の情報収集及び発信基地としての機能も有するとのことでした。施設、保有機材の説明を受けた後、関東大震災や中越地震を再現できる地震体感装置で、参加者はそれぞれ関東大震災や東日本大震災を体感し



ました。特に東日本大震災は108秒と長時間で、揺れも非常に激しく収まったと思うと又揺れだすという具合で机にしがみついていたのが印象的でした。

翌日の訪問先は、四季防災館です。富山の四季（春夏秋冬）の中で発生し得る災害を学べる体験型学習施設として機能しているとのことでした。ここでは映像による津波・土砂災害を視聴したり、水消火器による初期消火の体験、ホテルなどの居室から脱出する煙体験、救命救急等を実践してきました。特に煙体験は視界もほとんどなく通路も迷ってしまうほどでヒヤリとしてしまいました。

長野県は比較的災害の少ない所と思われるかもしれませんが、しかし想定外が想定外でなくなっている昨今、災害はいつでも起きることと捉えて、準備を怠らないことが肝要と感じた研修でした。

(環境美化部 長田元秀)

歴史探索

ぐるりおがまち

平林

飯縄社

古牧郷土史研究会 平林 玉木 栄一郎

平林の安達神社境内北西にある石の祠。高さ約2m（台座を含む）、約1.3m四方で南に鳥居があり、春秋の安達神社例大祭にはその前に幟を揚げる。

かつて、社は平林城の東北隅（鬼門）にあったが、城跡地が国鉄に売却され昭和23年に現地に移した。（この間、明治政府の神社格付けで無格社となり、社地が個人に売却されその屋敷にあったこともある。）

平林城には戦国時代、武田信玄二十四将の原美濃守が居城しており、その将が社を建てたといわれている。

次頁につづく



前頁のつづき

もともと飯縄信仰は、飯縄山を御神体とするものであったが、飯縄山は修験の地であったがために飯縄権現（翼を持つ天狗で狐いぐさにまたがり忍法を使う）を祀るようになり、軍神として武将の人気を得た。武田信玄も上杉謙信も熱烈な支持者であった。

現在は保食うけもちの神を祀っている。ご利益は五

穀豊穡・無病息災・家内安全等といわれているが、平林では病気が緩和され延命できたという話も伝わる。

(注)「保食うけもちの神」は、食物の起源とされている神で、日本人が農業を覚え、動物など様々な種類の生き物を食べるようになり、安定的に食料を確保できるようになった時代を象徴する神ではないかと考えられています。

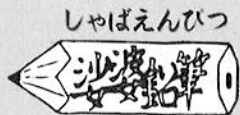
12月から1月までの主な行事実施日のお知らせ (多くの皆様の参加をお待ちしています)

事業名	実施日	場所	実施内容	お問合せ先
年末防犯 夜間パトロール	12月	各区	夜間防犯パトロール	防犯部
ほんわか健康塾こまき	1月～	古牧公民館	ストレッチ体操や脳トレ等。参加者(65歳以上の方)募集しております	ボランティアセンター 244-8159
男性の料理教室	1月15日	古牧公民館	おいしい料理をつくりながら仲間づくりをしませんか	ボランティアセンター 244-8159

地域たすけあい事業の協力員さん募集

お問合せ先：古牧ボランティアセンター ☎244-8159

現在、協力員さんを募集しております。古牧地区にお住いの方で、この事業に興味のある方、ご連絡をください。



原風景と運命の地

冬の朝、2階自室の窓のカーテンを開けて屋根から続く真白な風景を見ることが好きな子どもでした。ランドセルを背負って登校する道は、大人の膝下まで雪が積もって人ひとり歩ける長い一本道。向こうから大人が歩いてくると長靴で雪を踏みしめ私に道を譲り待ってくれるので、お礼を言って急いで通りすぎました。

生まれ育った富山は日本海側特有のどんよりした空が当たり前。転勤族の夫と太平洋側に暮らすようになり、ぬけるような青空が嬉しくて空を見上げることが好きな大人になりました。

5年前に誰ひとり知る人もいない長野へ縁あって移り住み、東京で学んだ日本最初の健康体操の種まきを続けています。この地で得た人とのつながりは心地よく、四季を共に彩りゆく山々や青空は心豊かな時間を与えてくれます。私はこの運命の地<古牧>で心も身体もしなやかに生きていきたいと願っています。

(近藤 葉子)



古牧地区の世帯数と人口

30年11月1日現在

11,401 世帯

26,811 人

(男 13,197人 女 13,614人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話259-8359・FAX219-1057)
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)
- 発行者 金澤 正義
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 尙小池印刷